



FY2027 Q1 RESULTS

2027年5月期 第1四半期 決算説明資料

新たな経営体制のもと、
構造改革が前進。

Shinwa Wise Holdings株式会社（東証スタンダード：2437）
2026年10月15日

「決算説明資料（スマートフォン版）」も同時に開示しています。

営業損失が縮小し、落札点数・落札率は前年同期を上回る

連結売上高
前年同期比

詳細 p.9

188 百万円

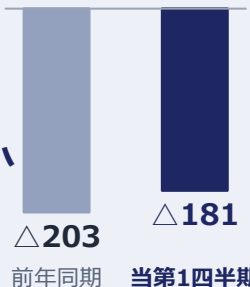
△9.0% (前年同期 207)
主にプライベートセールの減少

営業損失 (前年同期比)

百万円

21 百万円 縮小

販管費が
24百万円減少



落札点数 (前年同期比)

うちワイン・リカー 316点

点

+63.5%

落札率
84.1% → 87.8%



主なトピック

詳細 p.4

2026年5月期

監査意見は
無限定適正意見に

8月27日

取締役会を刷新

10月15日

子会社の
吸収合併を決議

2027年2月 (予定)

本社を有明へ移転



TOPICS

主なトピック

- 04 主なトピックの一覧
- 05 監査意見・経営体制
- 06 グループ再編
- 07 本社移転

監査意見は無限定適正意見に。取締役会を刷新し、グループ再編を決議

中期経営Vision（2026年7月公表）の計画：2027年5月期に構造改革・新体制移行を完了し、2028年5月期から成長フェーズへ

2026年5月期（有報 8月28日提出）

p.5

監査意見は無限定適正意見に

限定付適正意見 → 無限定適正意見
連結財務諸表の監査意見（2025年5月期→2026年5月期）

2026年8月27日

p.5

取締役会を刷新

取締役9名のうち5名が新任（うち社外取締役4名）

2026年10月15日

p.6

子会社の吸収合併を決議

Shinwa Auction(株)を吸収合併
効力発生日（予定） 2026年12月1日

2027年2月（予定）

p.7

本社を有明へ移転

有明セントラルタワー（江東区）へ移転予定

監査意見は限定付から無限定適正意見へ。取締役9名のうち5名が新任

監査意見・内部統制

連結財務諸表の監査意見

2025年5月期
限定付適正意見



2026年5月期
無限定適正意見

内部統制（2025年5月期・2026年5月期とも）

内部統制報告書（経営者の評価）

有効

内部統制監査報告書（監査人の意見）

無限定適正意見

2026年5月期の監査意見が無限定適正意見となり、
当第1四半期は、東証の規則による監査法人の期中レビューの
義務付けの対象外となりました。

経営体制（2026年8月27日の定時株主総会后）

取締役

9名

うち新任

5名

うち社外取締役

4名（全員新任）

2025年12月の主要株主の異動、2026年3月の代表取締役の異動に
続き、8月の定時株主総会で取締役会を刷新しました。

新体制が進める3つの改革

① ガバナンスの再構築

取引審査・会計判定・開示のプロセスを整え、内部管理を強化

② 収益構造の立て直し

オークションの出品誘致を強化し、プライベートセールを再構築

③ 成長フェーズへの移行

2028年5月期からの成長に向け、アート×金融の事業を準備

Shinwa Auction(株)を吸収合併、管理コスト削減とシナジー創出へ

現在



吸収合併

合併後（効力発生日以降）



☐ 今回の合併の対象（主な連結子会社のみ表示）

合併の目的

① 管理コストの削減

管理機能を当社に一本化し、
経営の効率化と意思決定の迅速化

② シナジーの創出

オークションの経営資源を
当社で最大限に活用

方式・日程

当社を存続会社とする吸収合併（無対価）
当社は簡易合併、同社は略式合併
決議・契約締結 2026年10月15日
効力発生日 2026年12月1日（予定）

2027年2月、本社を有明へ移転予定

移転の概要

現本社
郵船ビルディング
(千代田区丸の内)



新本社
有明セントラルタワー
(江東区有明)

移転予定 2027年2月

本店所在地 定款変更を承認
(2026年8月27日の定時株主総会)

入居 当社及びグループ会社

移転の理由 グループの拠点を集約し、
オークション事業の成長基盤を築くため

移転先のエリア（江東区有明）

周辺の事業者 複数の美術品オークション会社が
本社を置くエリア

展示・会議施設 東京ビッグサイトなどの
展示・会議施設が立地

交通（新本社） 東京ビッグサイト駅から徒歩4分
国際展示場駅から徒歩5分

RESULTS

決算概要

- 09 連結業績
- 10 営業損益の増減要因
- 11 事業の状況
- 12 財政状態
- 13 第1四半期の比較
- 14 直近5四半期の推移



販管費の減少により、営業損失は前年同期から縮小

（百万円）	2026/5期 1Q	2027/5期 1Q	増減	前年同期比
売上高	207	188	△18	△9.0%
売上総利益	97	94	△3	△3.2%
売上総利益率	47.2%	50.1%	+2.9pt	
販売費及び一般管理費	301	276	△24	△8.2%
営業損益	△203	△181	+21	－
経常損益	△210	△186	+24	－
四半期純損益※	△227	△186	+40	－

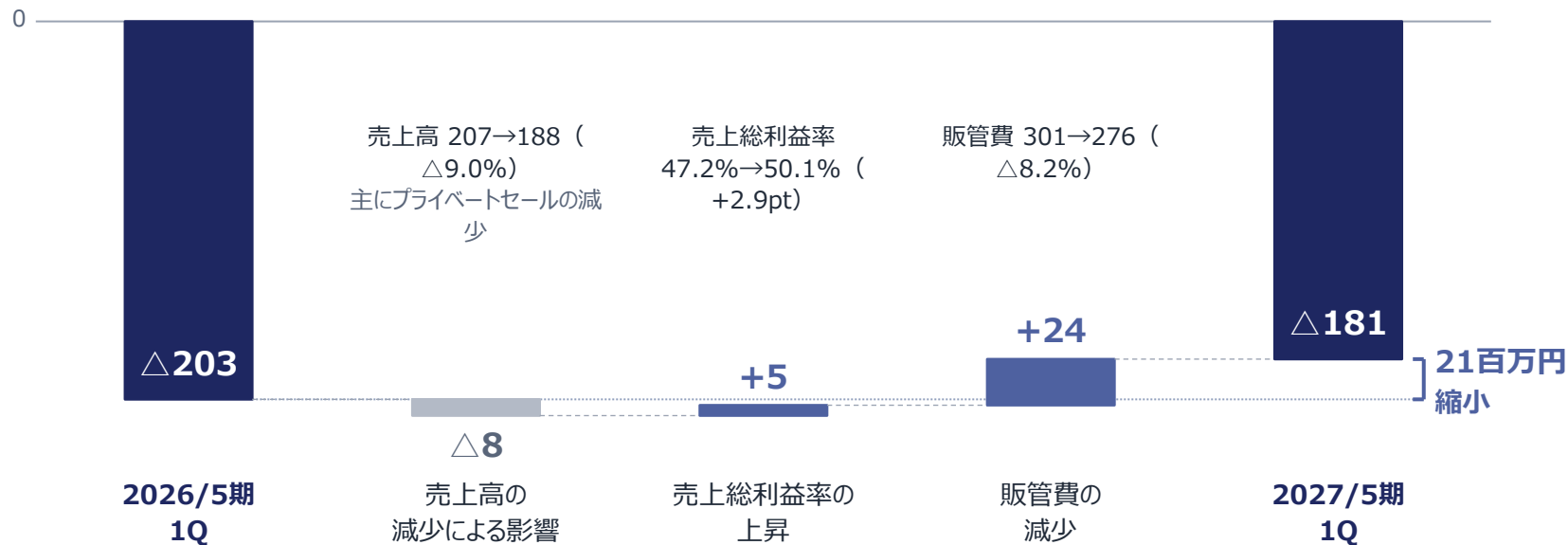
※親会社株主に帰属する四半期純損益。百万円未満切捨て。

ポイント

- ・販管費は前年同期比8.2%減少し、営業損失の縮小に寄与
- ・売上総利益率は50.1%（+2.9pt）に上昇
- ・四半期純損失は40百万円縮小。前年同期の訴訟関連損失（14百万円）がなくなったことなども寄与

販管費24百万円の減少で、営業損失は21百万円縮小

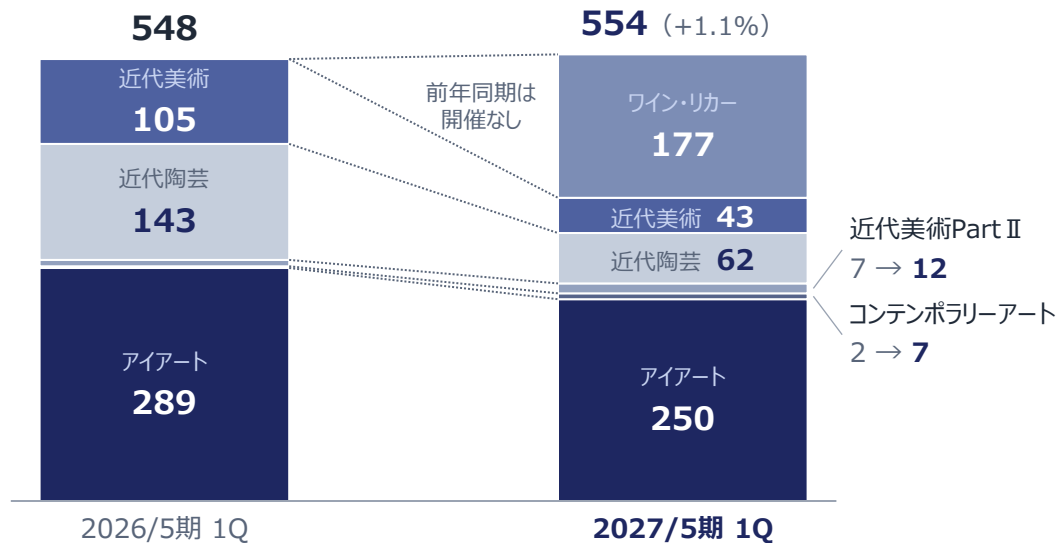
営業損益の増減（前年同期→当第1四半期、百万円）



売上高の減少による影響 = 売上高の増減×前年同期の売上総利益率、売上総利益率の上昇 = 当期の売上高×売上総利益率の差。百万円未満切捨て。

ワイン・リカーが加わり取扱高が増加、落札点数・落札率も上回る

オークション区分別の取扱高（百万円）



落札点数・落札率

うちワイン・リカー 316点

落札点数 **1,012** 点
前年同期 619点 +63.5%

落札率 **87.8** %
前年同期 84.1% +3.7pt

ワイン・リカーを除いても
落札点数 696点 (+12.4%)
落札率 85.5% (+1.4pt)

ワイン・リカー（前年同期は開催なし）が加わり、取扱高は前年同期を1.1%上回りました。

取扱高は落札価額等の合計で、会計上の売上高とは異なります。百万円未満切捨て。

財務基盤は引き続き安定

現金及び預金

841 百万円 前期末 1,008

前期末（2026年5月末）

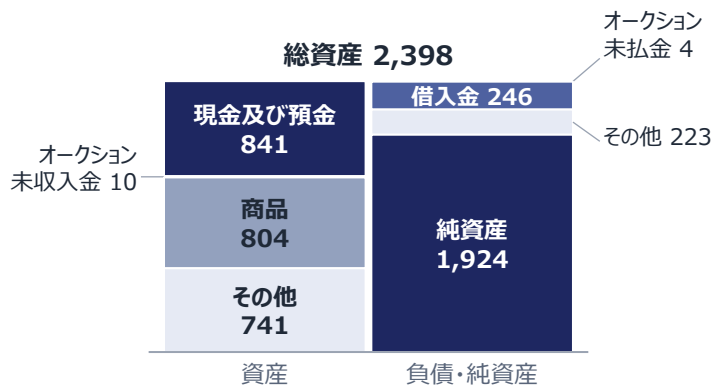
総資産 3,532



借入金

246 百万円 前期末 256

当第1四半期末（2026年8月末）



ポイント

- ・5月末は春のオークションの未収入金・未払金を両建てで計上。主にその決済が進み、総資産は1,133百万円縮小
- ・自己資本比率は80.0%（前期末59.6%）
- ・現金及び預金は、営業損失やオークション代金の精算等により167百万円減少

借入金 = 短期借入金 + 1年内返済予定の長期借入金 + 長期借入金。百万円未満切捨て。

ワイン・リカーが加わり、オークション売上高・取扱高が増加

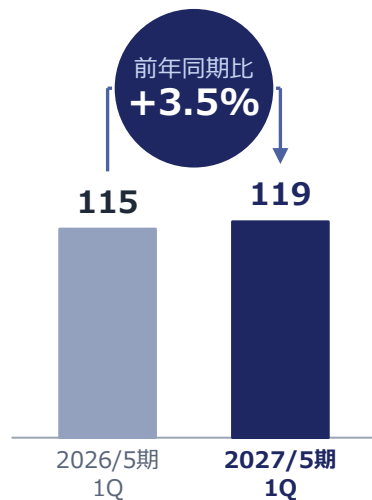
営業損益

百万円



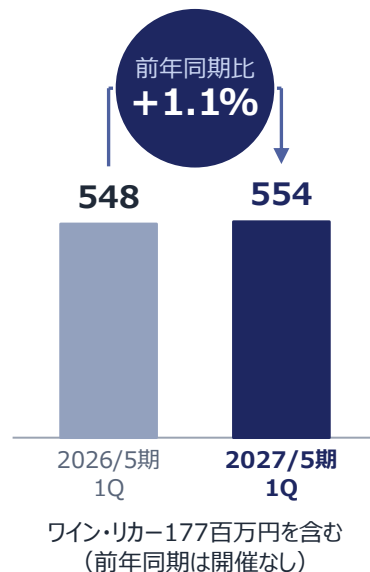
オークション売上高

百万円 (ワイン・リカーを含む)



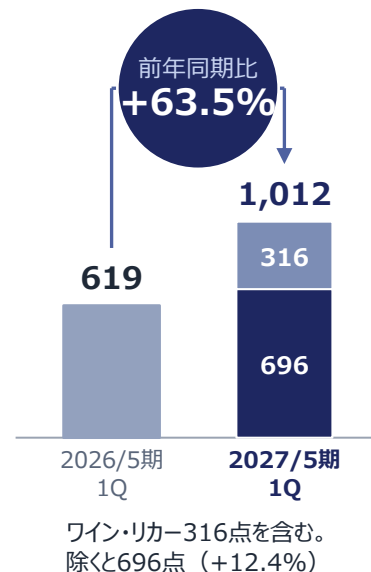
オークション取扱高

百万円 (ワイン・リカーを含む)



落札点数

点



百万円未満切捨て。オークションの売上高・取扱高・落札点数は、前年同期に開催のなかったワイン・リカーを含みます（区分別の取扱高はp.11）。

直近5四半期の推移：売上高・取扱高は季節により大きく変動

(百万円)	2026/5期 1Q	2Q	3Q	4Q	2027/5期 1Q	前年同期比・増減
売上高	207	399	391	579	188	△9.0%
オークション事業	115	205	203	452	119	+3.5%
プライベートセール	82	186	182	116	60	△26.6%
その他（アート関連事業）	2	2	2	2	2	△7.8%
その他事業	6	5	3	8	6	△5.9%
営業損益	△203	△37	△0	97	△181	+21百万円
オークション取扱高	548	1,081	967	2,170	554	+1.1%
(対象月)	6～8月	9～11月	12～2月	3～5月	6～8月	

毎年8月は、富裕層の夏季休暇の時期にあたるため、オークションを開催していません。

四半期（3か月）は累計値の差から算出。百万円未満切捨て。

MEDIUM-TERM VISION

オークションハウスから、 アート×金融プラットフォームへ。



本資料の将来に関する記述は、発表日現在の情報と合理的と判断する前提に基づくもので、その達成を約束するものではありません。実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。背景の画像はイメージです。